



117 特
2339



庚寅三月戊申值

王父君二十三祀因有感

服元濟

又值林花暮何如歲月遷感春愴湛露臨
水憶流年經業鳴三世芳輝襲短篇唯餘
白雲色掩卷泣遺編

同前二首

藤元維

滾々東流水悠悠奈悵然春風悲徃夏双
淚泣餘篇人世難同樂鳴禽易作憐神遊

何處所佇立對前川

丘前春靜樹森々一去登仙何處尋今日
徘徊回首望山中依旧白雲深

同前

安阿清

声名三世見輝光垂涕墳前總漸腸今日
依然門外水清風空望白雲鄉

庚寅三月值

赤羽服夫子二十三祀時余在芙蓉館塾恭

賦奉几前

服阿敬

墳前松柏翠芊々双淚感深懷往年餘稿
千金知不朽高名共仰世稱賢

松行義

きききてと小月ゆ紀を乃たりくく
君のその系志のたまはらむや

元子

王父其乃二十之頃まで

なごきせふこは此希ふも志のこも
まにー弥生のもるの婦ること
あぬ代の坊乃ちとちうの免なり
むり此を系成すふ志の婦も架

鉞子

婦りは縁生をまうりまひー

王父君にたらうと勢あまりの女のめくおぬ
いとく年月はさるふゆしとのこひ
は希心斗露のこれ系をよ句をさる

小ちん

英一の後と婦りー縁生れたも彩も
猶志のこもこふを光なりし

藤元維

王父君乃二十之女のほ志ふあこ
かふと乃みぢをぬわかまふ縁も
希ふといは志のこもこひの
系といはあぬせりーれ志乃をねて

をふもゆつゝそそ乃あははゆ
ありーせ小買とゆつゝさくそふ
いふも為も志乃そせそあふ

安阿清

そそてもあぬむじれ志のそぬ
きふらゆつゝ小ぬと袖うふ

元子

たは買のそすゆ小あはらとあふ
とせひ



